

オンローマン道

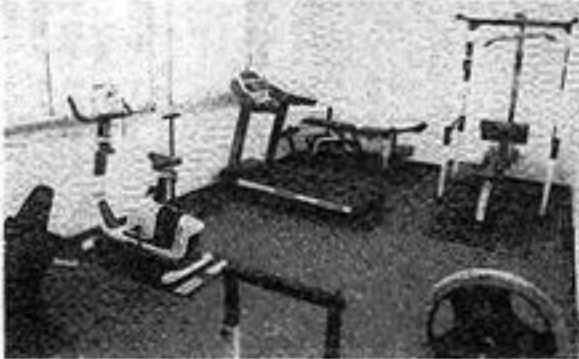
尾澤運送

【鳥取】尾澤運送(勝範慎祐社長、鳥取県米子市)はウィング車を新たに導入し、この5年間で業務を大幅に拡大させた。労働力不足が叫ばれる中、増収厚生を含めた手厚い待遇で多くのドライバーの獲得に成功し、県外にも営業拠点を相次いで開設。近い将来に倉庫建設の構想を掲げ、次の中期経営計画では組織基盤の強化に注力し、次世代への事業継承を視野に入れている。(矢野孝明)

もともと保有トラックは、入し、山陰地方の複数のメ平ボディー車とユニック車1カーと直取引を開始。当のみで、2014年ごろの初、新たな荷主から見た間保有台数は1台。取り扱いは、社内倉庫は他社の運送会社は木材や足場などで、輸送社に比べて低かったが、無エリアも米子市や隣接する。忙期でも依頼を一切断らず、健康対策や代表選出で鳥取県安来市にとどまり、年間売上高は何年も1億円。乗り切りながら信頼を高台からの備用台で増強していった。

14年からウィング車を導 その結果、15年6月期の

ウィング車導入 業容拡大



トレーニングジムを備え、福利厚生を充実

投入し続け、現在の保有台数は45台。食品ケースや製材など多様な荷物をメーカー工場から県外に運ぶほか、従来部門は鋼材や配電機などにも取り扱っている。

年間売上高は3億8000万円と一気に増え、利益確保の体質も確立。更に16年15年2月に鳥取営業所(鳥取県鳥取市)を開いたのに、17年同期は8億5千万円と急拡大を遂げ、直近の19年6月期は1億2千万円となった。平ボディーやユニックは、事業者に依存せず自社で復

手厚い待遇で運転者獲得

得を獲得することで、より高い利益の確保に努めている。19年5月には、山陰支店(鳥取県境港市)も新設し、同社のブランド力向上につ

た、物流センターが多く集まる竹内地区内で、大型ウィング車の長距離部門の拠

点として整備。敷地面積は7280平方メートルあり、近い将来に倉庫建設の構想を掲

ぐ。業容拡大にドライバーは不可欠だが、求人にも活用するのは採用ハローワークのみ。それでも、退職金制度やレクリエーション施設と

の提携による福利厚生、永年勤続手当を含めた給付体系などによって人材を確保

し、社員の間介による入社も数多い。また、社員の健

康管理に投立してよと山陰支店に7月、本格的なト

レーニングマシンを備えるジムも設置し、ドライバーへのバトンタッチに向けた準備に力を入れている。

人材確保の一環として、

ている。